

**「福祉職としての就労継続と離職に影響を及ぼす要因に関する研究」**

—福祉系専門学校卒業生を対象とした調査をもとに—

○ 日本福祉大学 氏名 子安 由美子 (会員番号 9082)

キーワード：就労継続・離職要因・キャリアデザイン

**1. 研究目的**

本研究は、福祉職としての就労の現状や就労継続意向および離職経験とその理由についての調査をもとに、福祉職として働き続けることに影響を及ぼす要因や福祉職を離れることに影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的とする。具体的には、福祉職として働き続けることの満足度や働き続けるモチベーションと職場条件や個人の属性との関係について分析する。また、離職経験のある者については、離職理由と職場の満足度や個人の属性との関係について分析する。

**2. 研究の視点および方法**

福祉職としての就労の現状や就労継続意向および離職理由等を把握することをねらいとして、A県下のB福祉系専門学校卒業生2,800名を対象に、質問紙調査を実施した。

調査の内容は、Ⅰ.現在の仕事について(職種、職位、経験年数、仕事の満足度、今後の仕事の継続意向等)、Ⅱ.これまでの就業経験(仕事の満足度、仕事を辞めた理由等)、Ⅲ.調査回答者の属性の3つのカテゴリーで構成した。

調査は、2019年4月～6月に郵送配布、郵送回収により実施し、回収数448通のうち、有効回答446件を分析対象とした。(有効回答回収率15.9%)

**3. 倫理的配慮**

本研究は日本福祉大学大学院倫理審査委員会の承認を受けて、実施した。また、本報告に関連して開示すべきCOI関係にある企業等はない。

**4. 研究結果****1) 調査回答者の属性**

分析対象者の属性について、卒業学科は、介護福祉士科が45%、社会福祉士科55%。男女比は、おおよそ4対6で女性が多く、年齢は40代が4割、次いで30代の割合であり、配偶関係は6割が既婚、主たる生計維持者は自分(本人)以外が44.4%と最も多かった。

**2) 現在、福祉職として働いている人で過去に福祉職を離職した経験がある人の過去の仕事の満足度と過去の福祉職を離職した要因****①過去の福祉職の仕事の満足度**

現在、福祉職として働いている人で転職経験がある人の過去の福祉職での仕事の満足度は、「仕事の内容・やりがい」について、満足28.8%、やや満足48.7%、合わせて76.5%、「職場の環境」の満足度は、満足14.2%、やや満足38.2%、合わせて52.4%であった。

**②過去の福祉職の離職要因**

過去の福祉職を退職した理由は、「法人や施設・事業所の理念や運営のあり方に不満が

あった」が最も多く 22.3%，次いで「他に良い仕事があったため」，「自分の将来の見込みが立たなかったため」がいずれも 19.7%，「結婚・出産・妊娠・育児のため」が 19.2%，であった。「法人や施設・事業所の理念や運営のあり方に不満があった」と回答した人のうち 47%は「仕事の内容・やりがい」の満足度を、やや不満足・不満足と回答していた。

### 3) 現在、福祉職として働いていない人の過去の福祉職としての満足度と過去の福祉職を離職した要因

#### ①過去の福祉職の仕事の満足度

現在、福祉・介護以外の仕事で働いていると回答した 48 人のうち、過去に福祉・介護に関する仕事の経験があると回答した人が 32 人、66.7%で、過去に福祉職を経験したのちに離職した人が多くいることがわかった。過去の福祉職の仕事の満足度は、「仕事の内容・やりがい」は、満足 50.0%，やや満足 46.9%，合わせて 96.9%と過去の仕事にやりがいを感じていた人の割合が高かった。「職場の環境」の満足度については、満足、やや満足合わせて 74.2%，「職場の人間関係・コミュニケーション」についても、満足、やや満足合わせて 74.2%と、働きやすい環境と感じていた人の割合が高かったと言える。また、「雇用の安定性」についても満足 35.5%，やや満足 41.9%，合わせて 77.4%と満足していた人の割合が高いことがわかった。

#### ②過去の福祉職の離職要因

過去の福祉職を退職した理由で最も多いのは、「結婚・出産・妊娠・育児のため」の 40.6%で、次いで、「他に良い仕事・職場があった」18.8%，「自分の将来の見込みが立たなかったため」15.6%，「自分に向かない仕事だった」15.6%が続いている。

## 5. 考察

過去に福祉職を退職した経験を有する人の過去の福祉職の仕事の満足度をみると、現在福祉職で働いている人よりも現在は福祉職以外で働いている人の方が、福祉職の仕事の満足度が高いことが把握できた。過去の福祉職を退職した理由をみると、現在、福祉職で働いている人は「法人や施設・事業所の理念や運営のあり方」に不満があったことが第一の理由であり、「仕事の内容・やりがい」にも不満を持っていた。その一方で、現在、福祉職で働いていない人は、「結婚・出産・妊娠・育児のため」が第一の理由であるが、それ以外にも「自分の将来の見込みが立たない」「自分に向かない」といった理由が挙げられた。福祉職として働き続ける上で、施設の理念や運営のあり方、それにもとづく仕事のやりがいを感じることができるかが大切な要因となっているが、福祉職として働くことに満足している人は多く、異なる法人・施設で福祉職として働くという選択をしているといえる。一方で福祉職から離れてしまう人は、結婚・妊娠などのライフイベント以外に、福祉職として働き続けることの将来性や自分の適性に疑問を感じていることから、法人として福祉・介護職として働き続ける上でのキャリアパスや仕事内容への適性を図る上での研修等に取り組むことが求められる。